



手段の獲得を安心の広がりへ

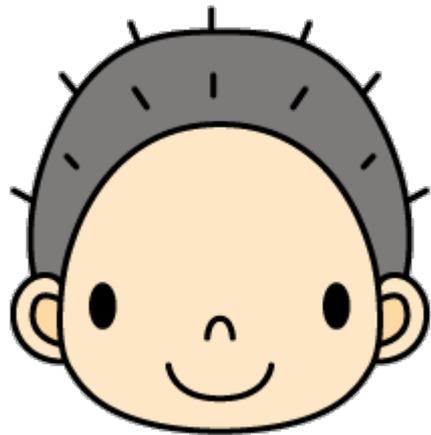
～早期の介入により学びへの自信を失わせないために～



松江市立 意東小学校
井上 賞子



発信にも受信にも消極的で
活動が継続しなかったQさん



「伝わる」「できる」の体験を重ねて、学習や学校生活へ安心感が持てる

Qさんの入学時の状況

【読む】

- 自分の名前も、判別できない。読める文字はOで入学。

【書く】

- 自分から鉛筆を持った経験がほぼない。
- 文字だけでなく、絵を描くこともしなかった。

【話す】

- 吃音と幼児音があり、早口で不明瞭。
- 声をかけられても、反応を返さず黙って立ち去ることも多い。
- 自分から話しかけたり、何かを求めたりすることはあまりない。

【聞く】

- 理解言語は多いように思われたが、注意の継続が困難で多動傾向もあり、その場においても聞いていないように見える。



Qさんの入学時の状況

【行動】

- 周囲へ働きかけたり意志を伝えたりする経験に乏しく、困ったり不安になったりすると無言でその場を離れたたり、歩き回ったりする。
- 保育所の運動会では、なかなか練習に参加できず、抜かれると走らなくなってしまうので、Qさんより遅い子と一緒に走るようにしたり、リレーでは1走にしたりしていた。
- 保育所時代は加配が付き、一対一で対応していた。
- 新しい活動や場所に対しては、とても不安な様子を示す。

当初のねらい

- 情報を共有する方法を増やしていくことで、応答する体験や喜びを重ね、周囲への関心が広がる
- 発信や確認の手だてになるよう、ひらがなの読み書きを習得する。

取り組みやすい方法や確認できる方法を持つことで、「知りたいこと」「伝えたいこと」を広げ、安心できる人や場所を増やしていきたい



Qさんの学びを支えるために活用したICT

① 「思いを伝え合う」 ツールとして

→「ByTalk forShool」



② 「読み」「書き」 の習得を支えるツールとして

→音との一致を促す

「デイジーポット」「FirstWords: Japanese」

「ひらがな 五十音」「これなあに？」

「ひらがなよめるかな」

「ひらがな こどもゆびどりる」

→完成の見通しをもって書く体験につなげる

「1日10分でえがじょうずにかけるアプリ」

→文字のとらえやすさを支える

「ひらがなおけいこ for iPhone」

→言葉の合成や分解、イメージ化を支える

「にほんごひらがな」「Bitsboard PRO」

「視覚支援シンボル」「さがすんです。」



この2つは、
現在配信
終了



① 思いを伝え合う



「ByTalk forShool」

- 閉じたSNSアプリ
- 一対一やグループを作って、やりとりをすることができる。
- ドロップレットプロジェクトで作られたシンボルがスタンプとして使える
- 音声、画像、動画を送ることもできるため、文字の読み書きが困難でもコミュニケーションが取れる

① 思いを伝え合う



初期

- すぐに使い方を覚えて、まずはスタンプをたくさん押してきた。
- 「おはよう」「おやすみ」といった定型のスタンプから始まり、他のスタンプを組み合わせせて情報を伝えるようになった。
- 教師からはスタンプと文字を送っている。文字は家族に読んでもらっているようだ。
- 教師の発信に合わせて、自分でスタンプを選んで送っていた。

① 思いを伝え合う



- ・ 教師から何度か画像を送っていたら、「先生に送るから写真を撮ってほしい」と自分から家族に要求するようになっていった。

- ・ 次第に、スタンプ＋写真という表現が増えた。

- ・ こちらからの問いかけに対して、適したスタンプを選んで返信するようになり、呼応するやりとりが増えてきた。

5月半ば

画像を使い始める

① 思いを伝え合う



6月に
入って

音声を使
い始める

- ・ 教師から定型の「おはよう」や「おやすみ」に対して、スタンプ＋文字＋音声を送ってみた。
- ・ 使い方は最初に見せただけだったが、自分でマイクを見つげ出し、音声もつけてくるようになった。
- ・ 音声も最初は「おはよう」「おやすみ」からだったが、次第に多様な表現に広がっている。
- ・ 写真を撮ってもらおうとき以外は、ほぼ一人で操作している。
- ・ 情報の確認ツールとしての利用を、自分から提案して始めた。

① 思いを伝え合う



7月に
入って

テキスト
入力を始
める

- ・ 日常的に学習の中で50音配列のキーボードを使っていること、単音の読み書きがほぼスムーズにできるようになってきたことなどの様子から、テキスト入力も手段になるといいと考え、教師からの発信も、テキストを少しずつ多めにしていた。

- ・ 「おはよ」「ごはんおわつたよ」など、表記の間違いはあるが、自分でテキストを打って返信してくることも増えてきている

思いを伝え合う取り組みを振り返って

- スタンプを選ぶから始めたことで、抵抗なくスタートできた。
- 「返事が来る」ことを楽しむ中で「伝えたいこと」が増えていき、「画像」「音声」「テキスト」と活用が広がっている。
- 手軽な手立てを持てたことで、「先生に見せたい」「教えたい」という思いが広がっている。
- 自分の体験や興味のあるものの情報が共有できてきたことで、会話が格段に増えた。
- テキストの活用が進むことで、日常的に思いを文章化していく体験を重ねていきたい。

「読み」「書き」の習得を支える ～音との一致を促す～



絵と音で確認した言葉を、マッチングで作っていく。「い・す」「いす」という具合に、単音→単語が音声で確認できる



画像を見て、二択から該当する言葉を選ぶ。画像から正解を音と文字で確認できるため、読めない時でも取り組める



絵と音で提示された言葉を、50音表の中から文字を選んで作っていく。ヒントに選ぶべき文字と絵が示されている。



単音を、音の出題を聞いてから、三択の表示の中から選んでいく。



画像を見て、それを示す言葉の一部が隠されている問題に三択で答える。



教科書を読み上げさせて、音を補いながらガイドを目で追って読んでいける。

「読み」「書き」の習得を支える ～音との一致を促す～



読めない
時から

- 薄く示されるお手本に文字のチップを重ねると、音声化してくれる。
- 「かんたん」と言いながらマッチングして言葉を作っていた。

絵を触ると、「あ
お」と聞こえる



文字チップを触ると、単音が聞こえる



マッチングしていくと、
単音→言葉と発音
してくれる

「読み」「書き」の習得を支える ～音との一致を促す～



読めない
時から

- ・写真を見て、その名前を二択から選ぶ。わからないときは「れんしゅう」ボタンを押して一覧から写真を選ぶと、正解がテキストと音声で示される。
- ・「全く読めない」状態でも取り組める。すぐに確認の方法を覚えて、確かめながら進んでいった。
- ・繰り返す中で、単音がまだ読めなくても、「視覚語彙」として選べるものも増えた。

「読み」「書き」の習得を支える ～音との一致を促す～



読めない
時から

- ・いろいろなモードがある中の「おぼえるドリル」を活用
- ・50音表から文字を探してことばを作っていく
- ・ヒントがでているので、まだ文字を読めない時からできた。
- ・50音表から探すことで、「この音は50音表のこのへん」という見通しにつなげたいと考えた。



ひらがなボタンを順番にタッチ!

「読み」「書き」の習得を支える ～音との一致を促す～



読める文字
が増え始め
てから

- ・アナログの2択が少しずつできるようになってから始めた。
- ・文字を見て音が浮かばない段階でも、音を聞いて三択から選ぶというのは取り組みやすかったようだ。
- ・次第に、すぐに選べる字、少し考えて選べる字、いつも間違えてしまう字が、決まってきた、「またこれか」「こっちかこっちなんだけどなー」と、つぶやきながら取り組んでいた。

「読み」「書き」の習得を支える ～音との一致を促す～



読める文字
が増え始め
てから

- ・画像を見て、その名前が下に出ているが、一文字見えない状態になっている。
- ・3択の中から、そこに入っている文字を選んでいく。
- ・画像を見て語彙がわかり、それを音に分解することができるようになってきていたので、単語を自分で唱えながら抜けている文字を見つけていくことができた。
- ・語尾音、語中音など、抜けている箇所が様々なので、言葉の塊を意識しながら探っていくことができた。

「読み」「書き」の習得を支える ～音との一致を促す～



- ・背景は紺、ハイライトは黄色の組み合わせを選んだ。
- ・「間」の設定を調整して、追い読みができるようにしている。
- ・まだ拾い読みだが、音を聞いてから読むことで、言葉の塊を意識する姿も見られる。

読める文字
が増え始め
てから



音との一致を促す取り組みを振り返って

- 「聞いて選ぶ」「聞いて確かめる」ことができるのは、ICTを活用する大きなメリットの一つだと改めて感じている。
- 聞きながら考えたり、自分でその音を復唱しながら選択肢を見比べたりという学習を重ねていく中で、選べる文字がどんどん増えていった。
- 「選ぶ」を繰り返していき、三択でほぼ選べるようになってから「文字を見て音を想起する」練習を始めたが、スムーズに読めるものが増えており、6月半ばには、単音であれば、50音がほぼ正しく読めるようになり、自信をつけた。

「読み」「書き」の習得を支える ～完成の見通しをもって書く体験につなげる～

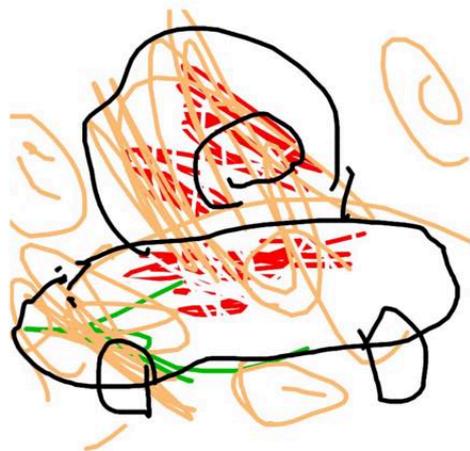


書けない
時から

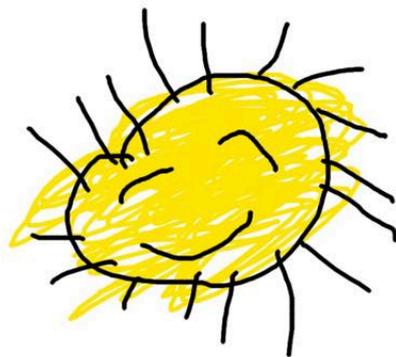
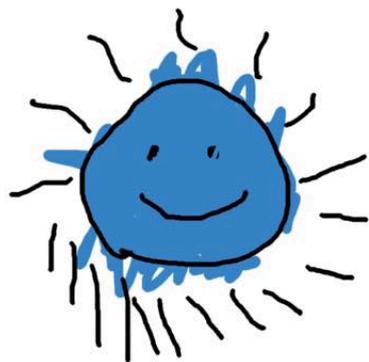
「1日10分でえがじょうずにかける
アプリ」

- 簡単な絵を一行程ずつ動画で確認しながら描いていける。
- できあがったお手本ではないため、「どうすればこれが描けるのか」の見通しをもちやすい

- お手本の描き方を確認しながら、楽しんで描くことができた。
- 「うまくかけた」と達成感を持つことができ、休み時間にもよく描くようになった。



休み時間や
家庭で描い
てきた作品



車・太陽

「読み」「書き」の習得を支える ～文字のとらえやすさを支える～

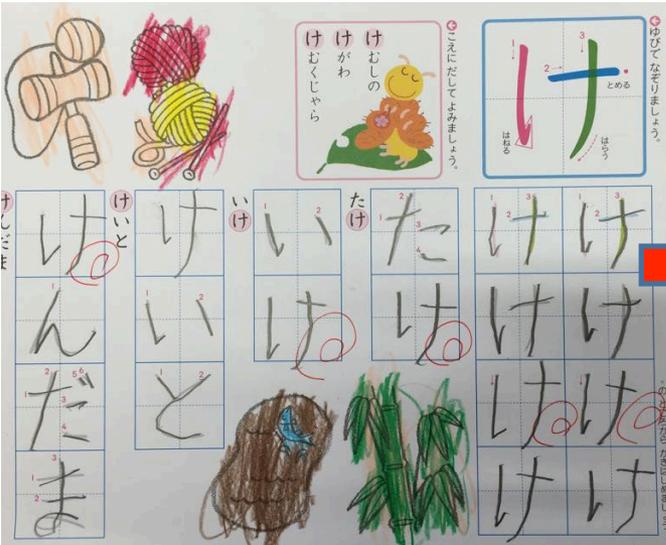
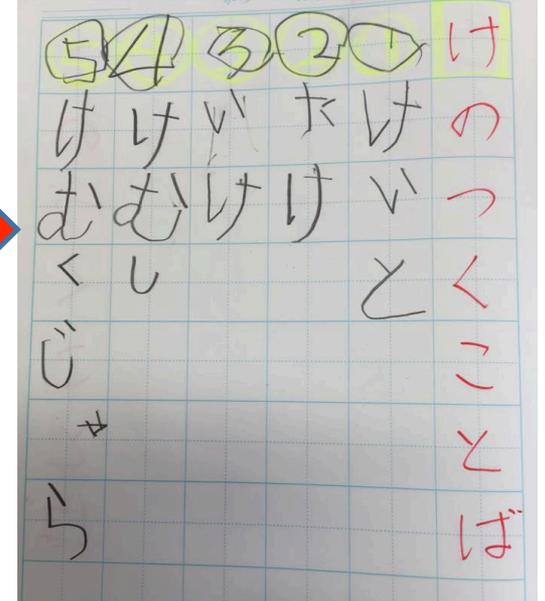
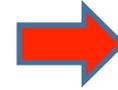
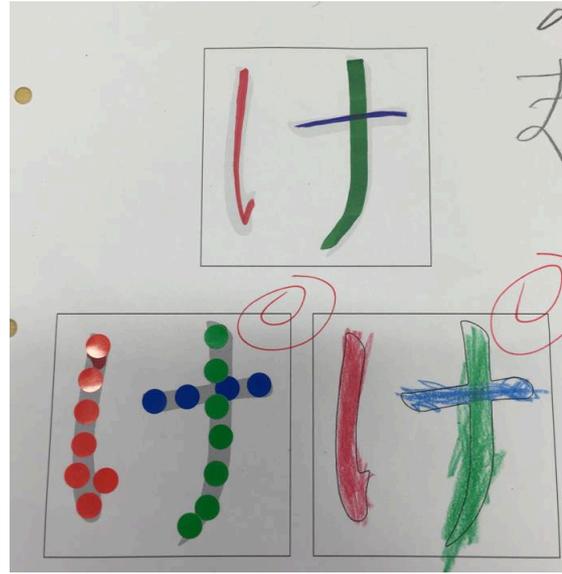
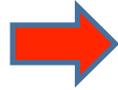


書けない
時から

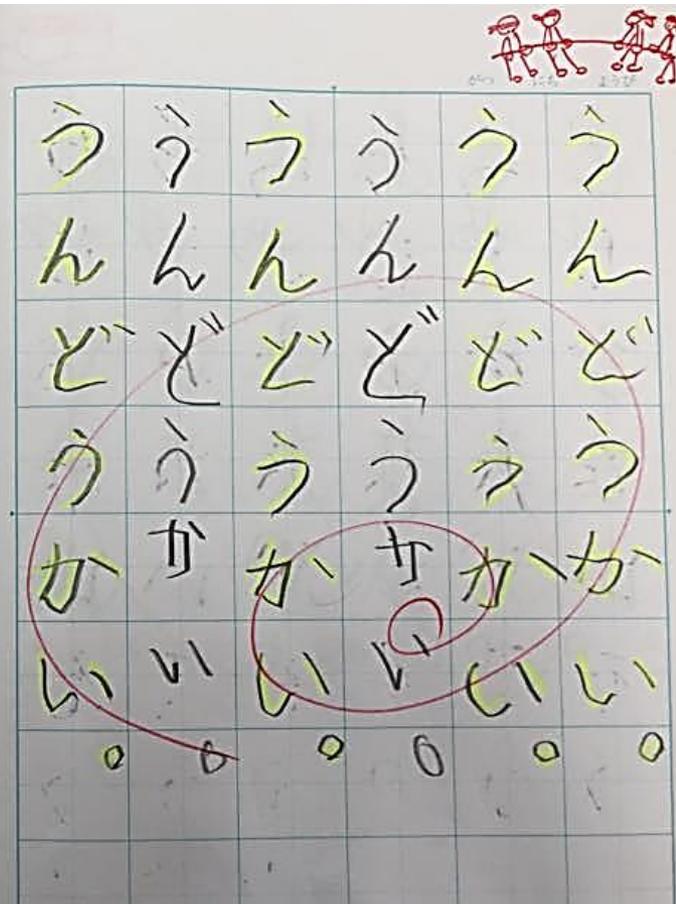
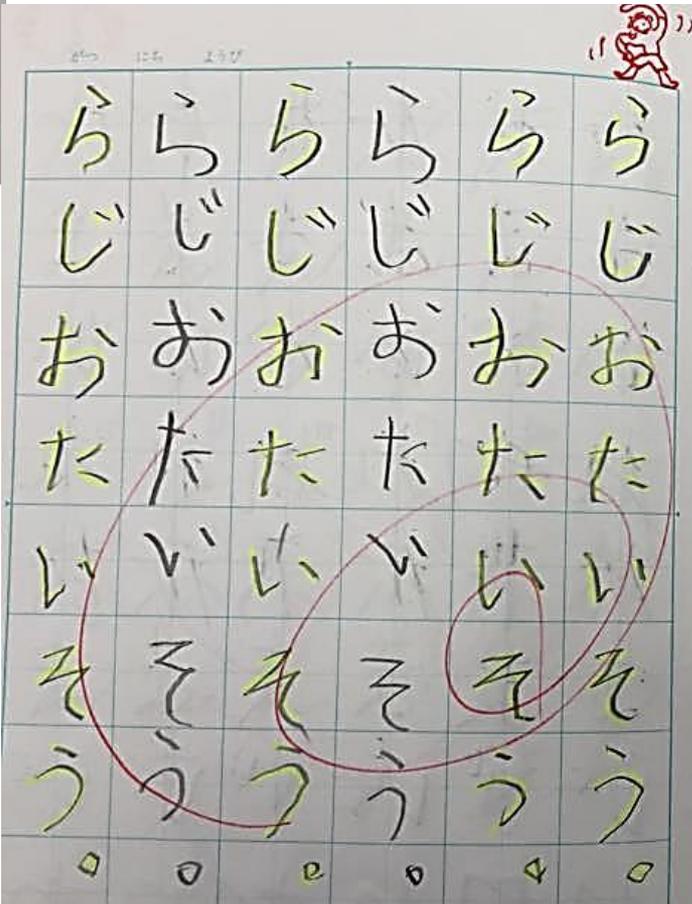
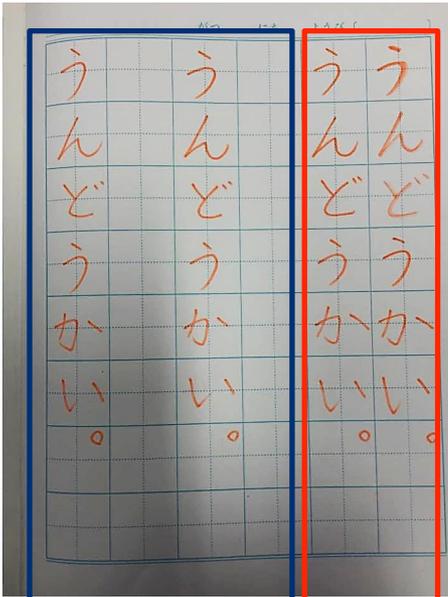
「ひらがなおけいこ for iPhone」

- ひらがなの始点、終点、方向性が一角ごとに示されるため、負担なく、正しくとらえ直すことができる。
- 音と画像でイメージを補いながら練習できる。

多感覚で捉え、確認しながらの文字練習



よく使う言葉を 同じパターンで練習



①なぞり書き2回

②左のお手本を見ながら書く

③なぞり書き

④②③をもう一回

書きへの取り組みを振り返って

- 鉛筆を持った経験がほぼない状態からのスタートだったが、「どう書けばいいのか」という見通しが持てると、書くことを楽しむ姿が見られた。
- まだ細かな力の調整などは苦手だが、「ここは長いんでしょ」「こっちは出ないよ」など、お手本を見て構成要素に分けたり、特徴をとらえたりもできるようになってきている。
- 想起して書ける文字はまだ少も増え、ほとんどのひらがなは書けるようになった。
- 同じパターンでの学習の中で、集中の継続が顕著に見られるようになってきた。

「読み」「書き」の習得を支える ～言葉の合成や分解、イメージ化を支える～



- 「にほんご ひらがな」
- 言葉を文字に割って選択していくことができる
 - 繰り返し音のヒントが聞ける



- 「視覚支援シンボル「さがすんです」」
- シンボルのzipをあらかじめ登録しておける。そこにはないものは「イラスト」の指定を自動的にして画像検索できる



- 「Bitsboard PRO」
- 画像と音声とテキストを登録しておけば、多様な出題形式で学習することができるオリジナルボードができる

「読み」「書き」の習得を支える ～言葉の合成や分解、イメージ化を支える～

あ

読み・書きで
できる文字が
増え始めて
から

- ・言葉を音で聞いて、順番に文字を選択していく。
- ・音のヒントを繰り返して呟きながら、文字を選んでいった。
- ・拗音や長音が出てくると困っていたが、残っている文字を見て、「これは最後でしょ」といいながら探す姿も見られた、



「読み」「書き」の習得を支える ～言葉の合成や分解、イメージ化を支える～



読み・書きで
きる文字が
増え始めて
から

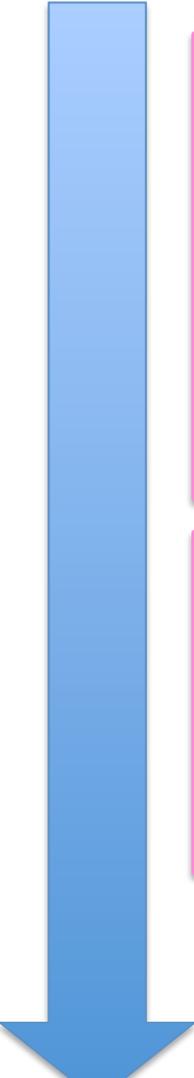
- ・「〇のつくことば」をお手本を見ながらノートに書く
- ・「さがすんです」で、その言葉に合う画像を探して保存する
- ・ビッツボードの「ことば」のボードに画像・音声・テキストを入力していく
- ・できたら文字マッチングや言葉の選択課題などに取り組む
- ・作業の行程で何度も同じ言葉を読んだり打ち込んだりしていくため、問題に取り組むと、正解をすぐに選ぶことができた。

言葉の合成や分解、イメージ化への 取り組みを振り返って

言葉あつめ→画像検索→ボード入力→音・テキスト・画像を組み合わせた問題に取り組むという一連の流れの中で、同じ言葉を繰り返すつづき、書いたり入力したり選んだりしていくことで、

- ・ 50音表の中からの選択
 - ・ 文字の想起
 - ・ 文字から言葉への組み立て
- がスムーズになってきている。
そして何より、自分のイメージにあった画像を探したり、自分の声を録音したりすることを楽しんで学習することができた。

音との一致を促しての「読み」のステップ



文字が読めない段階から、
絵や音を手がかりに
「選ぶ」

ヒント表示ありで、単音のマッチング

ヒントで確認して、単語選択

ヒント表示ありで、50音表からの選択

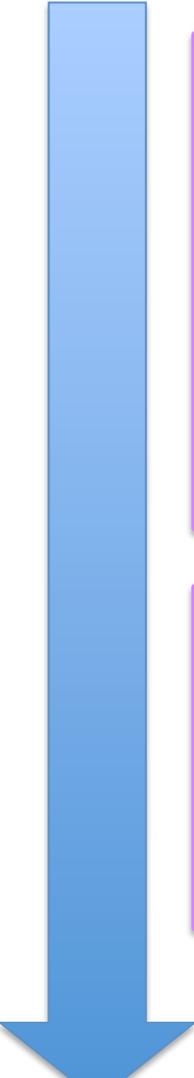
読める文字が増えてきた段階から、
手がかりを減らして
「想起」

ヒントなしで、3択から単音を選ぶ

単語の中の1文字を、3択から選ぶ

音とガイドで確認しながら、文章を読む

完成の見通しをもったの「書き」へのステップ



文字が書けない段階から、ガイドを手がかりに「**完成させる**」

手順に分けたガイドを手がかりに、
形を描く

手順に分けたガイドを手がかりに、
文字を書く

シールや塗り絵で構成を確認してから、
なぞって文字を書く

書ける文字が増えてきた段階から、確認して書く「**機会を増やす**」

お手本を確認しながら、文字を書く

よく使うことばを、確認の手立てを
もって練習する

書きたい言葉を、想起したり50音表から探したりして書く

言葉の合成や分解、イメージ化への ステップ

読み・書きで
できる文字が増
えてきた段階
から、文字を
ことばに合成
したり、こと
ばを文字に
分解したりし
ながら、こと
ばと文字がス
ムーズにつな
がるようにし
ていく

単語を聞いて、ばらばらになっている
単音を順番に選択

50音キーボードを使って入力し、
自分のイメージに合う画像を選ぶ

ことばカードを作る

- 画像を選択
- テキストを入力
- 音声を録音

自作のカードを使って、学習する

- 単音を順番に選択
- 選択肢の中から単語を選択
- 入力して解答

書きたい言葉を、想起したり50音表から探したりして書く

4ヶ月の取り組みを振り返って

- 当初は、知的な困難のある児童への介入体験をベースにした取り組みを計画していたが、ByTalkを使って、どんどん自分から発信してくる姿や、「選ぶ」ものを自分で組み合わせていく様子から、方法を持たない中で示すことができなかつたQさんの能力の高さを感じる場面が増えていった。
- 単音については、6月頭には読み、7月頭には書きがほぼ正確に定着し、学習への自信をつけてきている。
- 現在は、「読む」→「読んで理解する」、「書く」→「書いて伝える」へもつながってきており、学年の学習内容に沿った取り組みへシフトしてきている。

日常は生き生きとよくしゃべり、学習にも意欲的なQさんだが、年長の際に見られた、目線はうつろになり間延びした幼児音が強く出る独特の話し方が出たり、眉間にしわをよせて無言で立ち去ったりする場面が時折ある。

- ・「はい、これ言って」と通常級の友達や大人から一方的に促される時
- ・厚意からなのだが、たくさんの子が各々で「・・・せんといけんよ!」と声をかけてきた時

あの姿は、彼が「**自分を守っていた姿**」だったんだと感ずることが増えた。



思いがあり、納得して進みたい子である。その願いが伝わる選択肢を、今後も増やしていきたい。